


【研修一様式2】

「令和元年度研究実践園研修事業」実施報告書

園名	札幌市立手稲中央幼稚園	園長氏名	氷見 登弓
演題 講師 日時	<p>『幼児期～小学校～中学校～高校まで一貫して育てたい ～資質・能力のつながりを探る』</p> <p>札幌市立手稲中学校校長 和泉 明 開成中等教育学校主幹教諭 西村 里史 札幌市立手稲中央小学校教務主任 寺田 誠治 札幌市立手稲中央幼稚園園長 氷見 登弓 札幌市立手稲中央幼稚園研究部長 川角 清美</p> <p>令和元年10月29日 16:00～18:00</p>		
研修内容	<p>資質能力を幼稚園→小学校→中学校→高校→大学と一体的に育むようにと新教育要領が改訂された。</p> <p>そこで、今年度本園では、各校種の先生方を講師として招き、それぞれの年齢に応じた資質能力を育むために、各学校がどのように実践しているのかを写真や映像で紹介していただいた。</p> <p>各校種の先生方、さらには特別支援に携わる方々が参加され、学びを共有し、意見や質問を交換し合った。</p> <p>それぞれの立場で、自分が関わっている子どもたちの今、そして将来について、また、それぞれの校種間での連携などを考える大変貴重な研修会となった。</p> 		
研修の成果	<p>アンケートより抜粋</p> <p>『一貫して育てたい主体的で対話的で深い学び』を4校種で同じようにくくってはいるが、それぞれの年齢や発達段階で育てていくものは違う。次の校種への引き継ぎ、受け取る側の工夫が必要。(小学校教諭)</p> <p>A1に負けない学び続ける教師になることは、教師の努力でいくらでもできる。大きな教育改革は出来なくても教師自身が自分の意識改革をすることは可能であり、その積み重ねがこれからの学校、日本の教育を変えていく鍵なのであろう。(中学校教諭)</p> <p>それぞれの立場で、子どもたちの『今』の専門性を磨くだけではなく、今ある子の過去と未来をつなぐ役割を持つことも『プロ』として忘れてはならないと思います。開成中等教育学校の『バカロレア教育』の目指している『異なることを受け入れ、認め合う考え方』は、幼児教育の『一人一人を大切にする教育』と変わりません。違うことの素晴らしさ、違って面白いことを子どもたちが実感できる幼児期、学校生活を目指したいと思います。『自分が好きな子』を育てましょう！(幼稚園園長)</p>		